

抗議の要請文

原子力空母ロナルド・レーガンの横須賀入港に強く抗議する。横須賀基地から直ちに出て行くこと、原子力空母の横須賀母港化撤回を要求する。

米海軍第7艦隊司令官 フィリップス・ソーヤー中将 殿
在日米海軍司令官 グレゴリー・フェントン少将 殿
米海軍横須賀基地司令官 ジェフリー・キム大佐 殿

神奈川県労働組合総連合
新日本婦人の会神奈川県本部
神奈川県商工団体連合会
神奈川県平和委員会
安保廃棄神奈川県統一促進会議
原子力空母の母港化を阻止する三浦半島連絡会
原水爆禁止神奈川県協議会

12月5日午前11時11分、米原子力空母ロナルド・レーガン(以下R・R)が横須賀基地に入港した。これで、原子力艦船の横須賀入港は今年24回目、通算981回目となる。

原子力空母R・Rが8月14日に横須賀を出港し本格的な作戦航海に出た。海上自衛隊や他の同盟国海軍との「共同演習」「共同訓練」が、フィリピン海、日本近海、東シナ海、西太平洋などで行われた。「共同訓練」は5回にわたって行われ、東アジアと世界の平和への努力に逆行する軍事行動を展開した。これは、軍事的圧力・威嚇を強めるものであり、朝鮮半島の非核化や平和体制の構築、北東アジアの平和にとって害悪をもたらすものである。

朝鮮半島の緊張緩和、平和構築の流れが強まるにもかかわらず、この4か月にわたる原子力空母R・Rの軍事的行動は、中国への圧力・牽制などを企図し軍事的緊張をもたらすものである。さらに、原子力空母R・Rの艦載機や乗組員は、10月・11月と相次いで墜落事故、乗組員の違法薬物所持事件も起こしている。

このような世界の平和と安全、私たちの生活を脅かす事故・事件を起こしている原子力空母の横須賀入港は、県民のいのちと安全を脅かすものであり強く反対し、直ちに横須賀から出ていくことを要求する。

これらのことから、原子力空母の横須賀入港と母港化は、次の点で重大な問題がある。

第1に、原子力空母R・Rの横須賀入港は、横須賀をアメリカの世界戦争の出撃拠点にするものである。日米安保条約及び安保法体制のもと日本が日米一体で戦争する国へ突き進むものであり、横須賀基地が戦争の出撃拠点として軍事的に強化されるものである。

第2に、原子炉を搭載する原子力空母R・Rの横須賀入港・母港化は、3000万人の首都圏住民を原子炉事故の危険にさらすものである。原子力空母の原子炉の安全性の検証や情報公開もされず、原子炉事故対策もずさんでまともな原子力事故防災対策がない。首都圏は、巨大地震の発生確率が年々高まっている。住民を巨大地震や津波による原子炉事故の危険にさらす原子力空母の横須賀入港・母港化は到底認められない。

第3に、原子力空母R・Rの横須賀入港は、厚木基地及び岩国基地周辺住民の艦載機の爆音被害、米軍機の墜落及び落下物事故、米兵犯罪の被害にさらすことになる。

第4に、例年の状況から、原子力空母R・Rは、「原子力艦の修理は日本でおこなわない」としたエード・メモワールに反する危険な「定期修理」「放射性廃棄物の搬出」を年明けから5月にかけ横須賀基地で実施することが予想され、県民を放射能被害の危険にさらすことになる。

以上、県民の命と安全を脅かし、憲法9条をふみにじって日本を戦争に巻き込む原子力空母ロナルド・レーガンの横須賀入港・母港化に断固反対し、横須賀母港撤回を強く求めるものである。

以 上